



つちおと



◆11月29日、気仙沼漁業協同組合が整備を進めてきた「製氷工場」の竣工式・落成式が挙行されました。◆この施設の性能は、東北でも最大級ということで、外観そして内部の様子も迫力満点です。◆鉄筋コンクリート5階建、総事業費は20億円あまり、緊急時の避難ビルとしての機能も有するとのこと。◆水産業の復興へ大きく寄与することが期待されます。

◆今年も残すところ1ヶ月あまり。被災されたみなさまにおかれては、まだまだ「いつもの」年末年始を迎えることはできないかもしれませんが、支所管内では、復興関連事業の着工式、落成式が挙行されるなど、復興の「つちおと」が響き初めた一年でした。

◆一方で、被災住宅等の基礎撤去、土地の境界や権利に関する事など、被災された方々が対応すべき諸手続について課題を抱えていることも多く、今後、行政との調整が進むにつれて、課題が顕在化してくることが想定されます。行政機関や支援団体に各種相談窓口が開かれていますので、抱え込まずに相談されることをおすすめします。支所でも悩みの聞き取り、担当者等へのご紹介・対応依頼などをさせていただきますので、ご相談ください。

◆11月30日、10月中旬に申請のあった復興交付金の第4回目の申請に対する交付可能額通知が行われました。概要は4ページに掲載しましたのでご覧ください。

◆本当に風邪が流行っています。かく言う私も熱と咳にやられました。重症化せずに済みましたが、風邪は万病の元とも言います。罹ったかなと思ったら、油断なさらず診てもらいましょう。

◆お詫びの予告とでも申しましょうか…。当紙「つちおと」は、来年1月に年末年始の合併号として発行させていただきます。よって12月号の発行はご容赦ください。(山)



◆気仙沼市立唐桑小学校校長の海原 孝さんに聞く

今回は、気仙沼市の教育の最前線から、気仙沼市立唐桑小学校校長の海原 孝さんへのインタビューです。

—震災発生時や発生直後の御対応について教えてください。

震災発生時には職員室にいて、ちょうど1年生の下校時間であったことから、校舎外にいる1年生をグランドの中心に避難させました。その後、大津波警報が出たため、すぐに近くの高台に児童を連れて避難し、第1波の襲来する様子を見て、さらに高台の福祉施設に避難して夜を明かしました。次の日は、朝に、保護者や残っていた児童と一緒に公民館に移動しました。その後、職員は学校に戻り、児童の安否確認を行いました。

—平成23年度は4月21日に始業式が行われたとお聞きしましたが、震災発生後から始業式までは職員の皆さんはどのような対応をなさっていたのですか？

始業式までは、臨時登校日を設け、児童の健康観察等を行うとともに、家庭訪問をし、児童の様子を見にいっていました。

—震災前と震災後で感じる児童の変化などがあれば教えてください。

校長室は1階にあるので、校長室からでも、登下校したり、グランドで活動する児童を見たり、児童と挨拶をしたりすることができます。震災直後は、児童の中には挨拶を交わしても元気のない児童がいました。最近は、児童の元気も戻りつつあると思います。

—児童の心のケアに関して、御配慮されていることがあれば教えてください。

昨年は始業式が遅れたために、授業数を確保するため、夏休みや行事の準備時間を短縮したりして対応していたこともあり、現在は、できるだけ普段の生活、震災前の平年どおりの生活を児童が送れるように心がけています。その他には、震災前もそうでしたが、今まで以上に児童に声を掛けたり、児童をよく見守るようにしています。また、定期的にカウンセラーにも来ていただいています。

—学校生活はもとより、児童の日々の生活を支える上で、学校と家庭の協力は必要かと思いますが、家庭（保護者）とどのようなやりとりをなさっていますか？

これも震災前もそうでしたが、今まで以上に学校だよりや学級だよりを通じて学校での活動の様子を伝えたり、職員が児童に関して気づいた点があれば御家庭に連絡して情報を共有したり、連絡帳を通じたやりとりなどを行っています。また、御家庭には、児童に関する気づいた点や学校に質問等あれば遠慮なく連絡してくださいとお願いをしています。

—お仕事をされている中で復興庁に要望することがあれば教えてください。

多くの道路が被災して今後復旧の工事が進んでいくと思いますが、通学路等の整備をお願いしたいです。また、小中学生が体を動かす場所、遊ぶ場所を確保していただきたいと考えています。

—現在、先生が児童に呼びかけていることはありますか。

ゆくゆくはこの地域を担って復興に取り組む人材になる小学生が、今できることとして、勉強すること、運動すること、本を読むことを勧めていきたいと考えており、児童にもそのように呼びかけています。

海原 孝 (かいはら たかし) さん
昭和33年登米市生まれ。気仙沼市立唐桑小学校の
校長先生として教育現場で日々活躍中。



東日本大震災に対する政府の新たな取組 とその成果（例）の御紹介

発災直後から一定期間の政府の 取組を紹介します。。

11月19日に復興庁から公開された東日本大震災に対する政府の新たな取組とその成果（例）（未定稿）は、被災者支援、復旧や復興等について、政府の新たな取組とその成果の例を紹介しています。今後、この内容を紹介してまいります。

今回は、被災者支援に関して発災直後から主に1年程度の期間における政府の新たな取組とその成果の例です。

（1）物資・情報の提供

- ①従来は、被災地における物資供給は自治体の業務とされていたところ、東日本大震災においては、物流マネージャーの派遣等の取組により、食料、飲料、生活用品等を調達して供給拠点まで輸送したり、一部の避難所には自衛隊が直接搬送することで、緊急物資供給の一部を国が直接実施しました。このことにより、発災当初約47万人に上った被災者の方々の生活を維持し、また、国が食料約2,621万食、燃料約1,603万ℓを提供しました。
- ②従来は、被災地における被災者への情報提供は本来自治体の業務とされていたところ、東日本大震災においては、壁新聞（約4,000箇所に掲出。）やハンドブック（累計発行部数約170万部）等により、国による被災者への情報提供を行いました。

（2）仮設住宅

- ①仮設住宅の早期完成のため、（社）住宅生産団体連合会に対して、早期の供給を要請するなど、関係団体や事業者に対し、建設の早期化に係る協力要請を実施するとともに、用地確保等の支援のため、震災翌日から被災県に国土交通省職員を派遣しました。また、民間賃貸住宅を応急仮設住宅として借上げる仕組みを積極的に活用しました。
- ②仮設住宅における自治会の設置状況や各団地の集会所提供状況等の把握を行い、また、平成23年8月から9月にかけて50市町村3,231世帯を対象として居住環境等に関するアンケートを実施しました。

（3）被災者支援

- ①国の施策や事業の内容について情報提供や丁寧な解説を行い、被災者のために活動を行うNPO等の取組を支援するために以下のような取組を行いました。
 - ・「NPO等が活用可能な政府の財政支援（平成23年度第3次補正予算、平成24年度予算、平成25年度概算要求）」について取りまとめ、ホームページへの掲載や各種会議等での説明を通じて周知を行いました。
 - ・行政や民間の多様な担い手が連携して取り組むべき5つの分野における「ロードマップ」を作成し、ホームページへの掲載や各種会議等での説明を通じて周知を行いました。
 - ・行政機関、企業、ボランティア団体などの多様な担い手による「連携事例」を募集し、取りまとめた結果を公表するとともに周知を行いました。
 - ・全国の学生等に向けて、「この夏も、ボランティアに行こう！」と題するキャンペーンを実施し、広く周知を行いました。これらにより、NPO等が国の各種事業の委託を受け、また、他の関係団体と連携しながら、国の施策実施に協力いただく取組を進めました。
- ②従来は、避難者の状況は自治体で把握することとされていたところ、全国の避難者情報を取りまとめ、月に1回公表するとともに、被災地自治体に提供を行ったり、3件の避難所の環境把握を実施しました。このことにより、全国の避難者の分布、人数、推移についての情報を国、自治体、報道機関等と共有し、生活水準の向上を促進しました。

復興交付金について

復興プラン実現のために
まちづくりの各種事業を支援。。

10月中旬に自治体から申請された復興交付金事業計画について、11月30日に交付可能額の通知が行われました。7県72市町村に対して、8,803億円が通知され、うち宮城県分は5,059億円、気仙沼支所管内では、気仙沼市に872億円、南三陸町に539億円が通知されました。

今回、気仙沼市と南三陸町に復興交付金の交付可能額が通知された主な内容は次のとおりです。

- 住まいの再建を進めるための防災集団移転促進事業や災害公営住宅整備事業等に配分するとともに、被災地における地盤沈下した地区の地盤かさ上げについては、土地の具体的な利用の見込みがあるなど、一定の要件を満たす事業に効果促進事業等に対応。
- これまでに引き続き、市街地等の再生を加速させるため、防災集団移転促進事業、都市再生区画整理事業、市街地再開発事業、津波復興拠点整備事業、漁業集落防災機能強化事業についてこれらの事業と一体となってその効果を増大させるために必要な事業として効果促進事業の事業費を配分するとともに、対象事業を拡充し、市町のニーズに対応。

気仙沼支所では、引き続き、宮城県、気仙沼市、南三陸町と連携を図りながら、次回の申請（平成24年度中を予定。）に向けて復興交付金事業計画の策定を支援してまいります。

ナンプレにチャレンジ！！

	2				3		
6	9	1		8			
	8		5			2	1
9	4				8	1	
			4	7			
		2	1			4	3
4	1				2		3
				4		5	1
		5					9

ルール

- ・9マスごとの縦の列と横の列にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。
- ・太枠で囲まれた9マス（縦3マス、横3マス）にそれぞれ1から9の数字が1つずつ入ります。

【編集後記】

◆職場から家に帰るために車に乗り込もうとすると、窓ガラスが凍っている日が出てきました。先月引いた風邪も治らないまま冬に突入してしまうと感じる今日です。皆様もお体に気をつけてください。

(前号のナンプレの回答)

5	7	4	3	9	1	6	2	8
3	8	6	4	5	2	9	7	1
1	9	2	6	7	8	5	3	4
4	2	1	9	8	3	7	6	5
9	5	3	7	4	6	1	8	2
8	6	7	2	1	5	3	4	9
6	3	9	5	2	4	8	1	7
2	1	5	8	3	7	4	9	6
7	4	8	1	6	9	2	5	3

復興元年

「つちおと」がホームページから御覧いただけるようになりました！

URLは、

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/001177.html>

または、①復興庁ホームページ→②宮城復興局→③気仙沼支所だより「つちおと」にお進みください。

「つちおと」発行元（お問い合わせ先）

復興庁 宮城復興局 気仙沼支所

電話 0226-23-5301

FAX 0226-23-5310

復興庁ホームページ

<http://www.reconstruction.go.jp/>